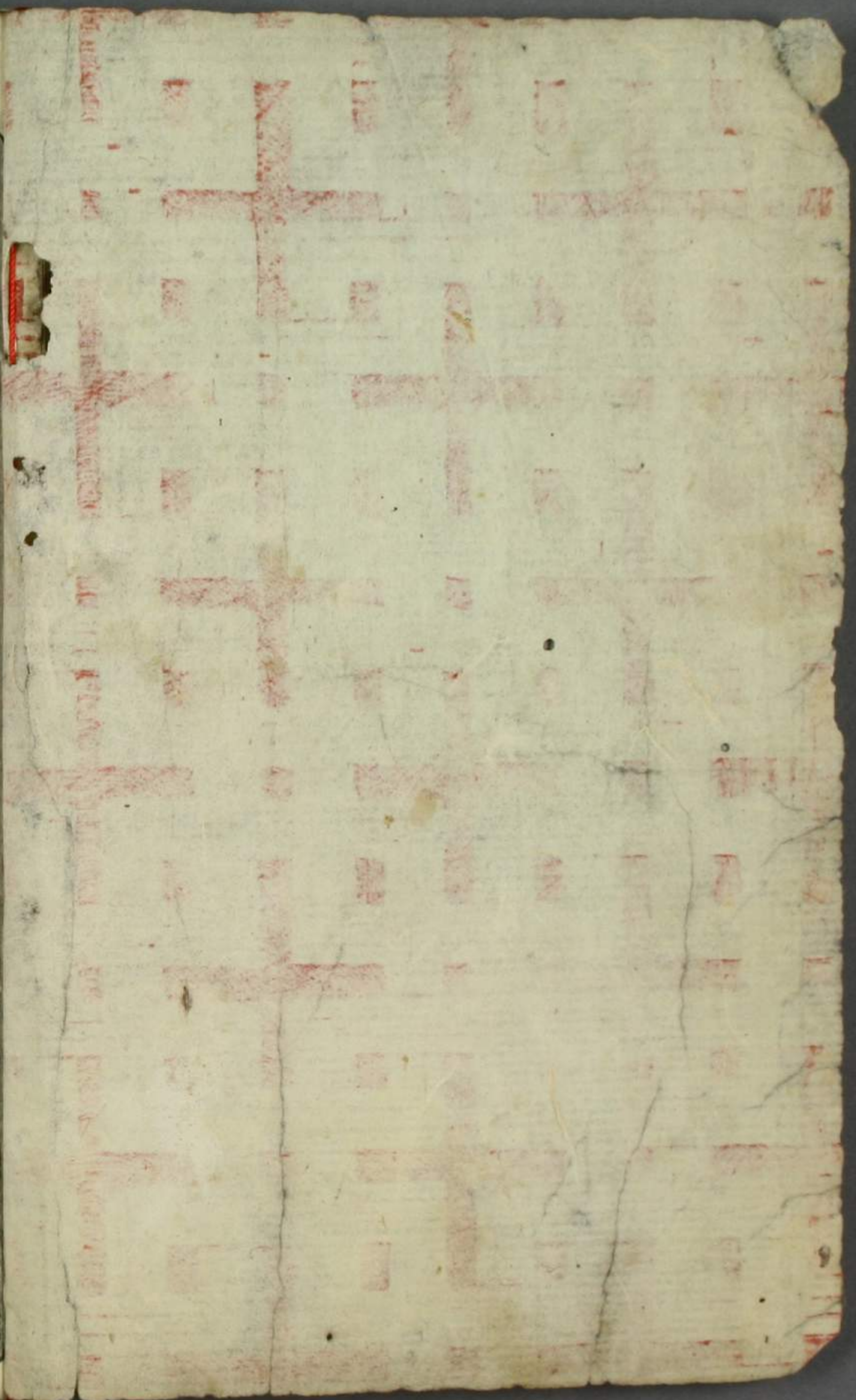
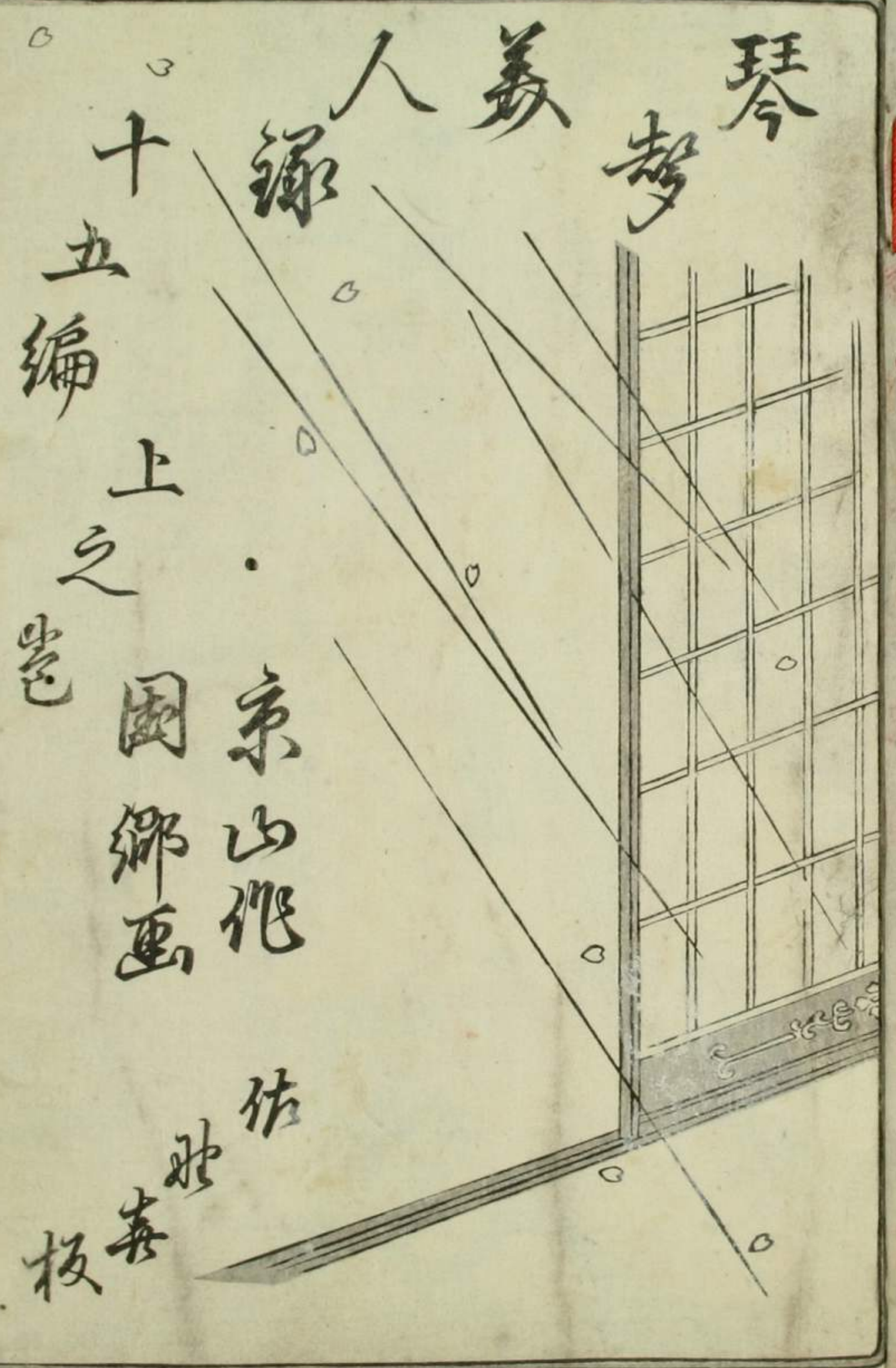


3025
17





山東庵京山作
立川齋國郷画

琴聲美人録
十五編

什題曲多國画



夢

英人

錄

十五編

下

去

京山作
玉

森鶴堂

壽梓



此冊子わきをのりてさうりきせんと書安
みけつまつきそわたりしよりいつつに書
室はさうりてうつくしくもやうだあれをうて
さうきうりいといふをうむび京山うう人
まうきをうて墨ひきたるをうむきうむき
あてあるたうてよ義人録ての冊子うて
ありてううううううううの料はじうううう
ううううううううううううううううのじよ
うううううう其筆ともうえど返一哥せんも
あけは鴈れつをううううひ侍りてかくせん
ある人うううううううううううううううう
此さうりてせれあうりかとうううううう人侍るせん
安政四とせし廿日あまう五日の日

今九峯山東庵京山





鎌倉松
葉谷常盤木
の館へ曲者あひ入り
て獅子王丸の宝剣を
奪ふことをさへ
する男女の兩人の
下の巻より十六編
はく

その二

久米高 ちねをむろく
五房 ちねをむろく

[illegible][illegible]

① 〇のうへに
 〇のうへに
 〇のうへに
 〇のうへに

[illegible]

久乃山家

「あつた、あつた、とめだてで
一ふんおぼへてござります下
用ひあるは、膚のうしろ
そばにおちさうかり二ふよ
あつた、あつた、をばらして

くへせらゆゆるりぬの
女房とあひなうふとて
ゆてありけりまたあらはのむ口もま
けなりあるひ月でもあつるこびふ
なるをいづちとんわにあやしくあまの

三

水之

かきく

卷之五

必入

20

・ 堂々
五五五
あのかた
うさぎ

歌と和歌

うんのつよ

やうのくし
のくし
のくし
のくし

のふもとに

卷之八

三ノ

世乃大をす

Sept 26/94

校二部

(六) 利をあらまり
ス米穀同きき
みてせしめ
よくむしき
ある物を
ゆきの
うちあり
うらやま
たちとの
わちか
くひね
あど
このまじり
おれだ
だるえん
のまじり
あわれ
ゆうふ
ありけり



だうぞと帝
 ③オトリやれど
 あらぐ内中も
 まうのあへざうま
 たちぐああらう
 うせうさすれど
 すらいのめとぞ
 とりつるをきくあはれ
 すらへめとでのういも
 あるにぐりいや・あま
 だうぞあはれ
 あの人よめぐ
 えはるう帝とい
 とりててあて
 あはれと③





[illegible]

想云和

(三) ちんぽ
さうきふびんと
あひの母のまげき
へらふともおもはず
あわのまちを
うづるゆゑのさうきを
まゝに世をさぐる

(四)

[illegible][illegible]

久也吉

④ 早きものむづかきものよりゆき

ちやうどさうゆゑ
 おうする自由を
 のいひなげう
 ぬいのほろこふ
 まるまゝを
 あらわ
 さるのあ
 つひつゝおま
 まぢりき
 なれのりて
 られて由
 まるまゝの
 まるまゝのつら
 をうり人まで
 りぬまり
 うるむすこ
 ああその中
 まるまゝに
 りぬまり
 子の



〇さうやうなものを
 あつたうきををきりてきり
 うきをきりてきりてきり
 〇さうやうなものを
 あつたうきををきりてきり
 うきをきりてきりてきり
 〇さうやうなものを
 あつたうきををきりてきり
 うきをきりてきりてきり

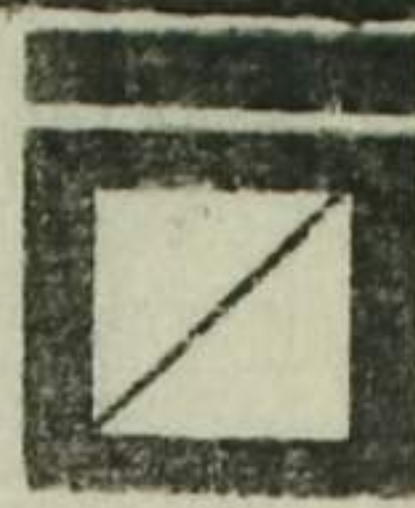
美人録十五編終

立川齋國郷画



〇二十五六の年を
 あつたうきををきりてきり
 うきをきりてきりてきり
 〇さうやうなものを
 あつたうきををきりてきり
 うきをきりてきりてきり

安政四年己
 春八十九歳
 京山作



諸合藥

江戸大田通宇田川町西側中程

紀伊國屋九兵衛

御藥種丸散丹圓諸合藥精製吟味別而念入申候
 其外奇藥最上極品貯且定價廉直也

牛黄丸 大人小兒萬病急症と救ふ良藥也

家傳救命丸 大人小兒萬病急症と救ふ良藥也

綱鑑

〇中々いふに
 〇さうやうなものを
 あつたうきををきりてきり
 うきをきりてきりてきり

中暑和中飲 霍亂吐瀉 加正散 以移氣四時

法無效 何は神効之方 一粒丸 大人小兒

御白体 此は神効之方 即効膏 此は神効之方

御量物 煉香 不淨除漬 此は神効之方

雷除神丹 此は神効之方 神効散 此は神効之方

旅行懷中御用意 照藥子 或入

包玉 此は神効之方 御香木 此は神効之方

塗香 此は神効之方 右六国七種組合代金壹分より奉る上は其以



藥 十 京 山 作 編 美人 録

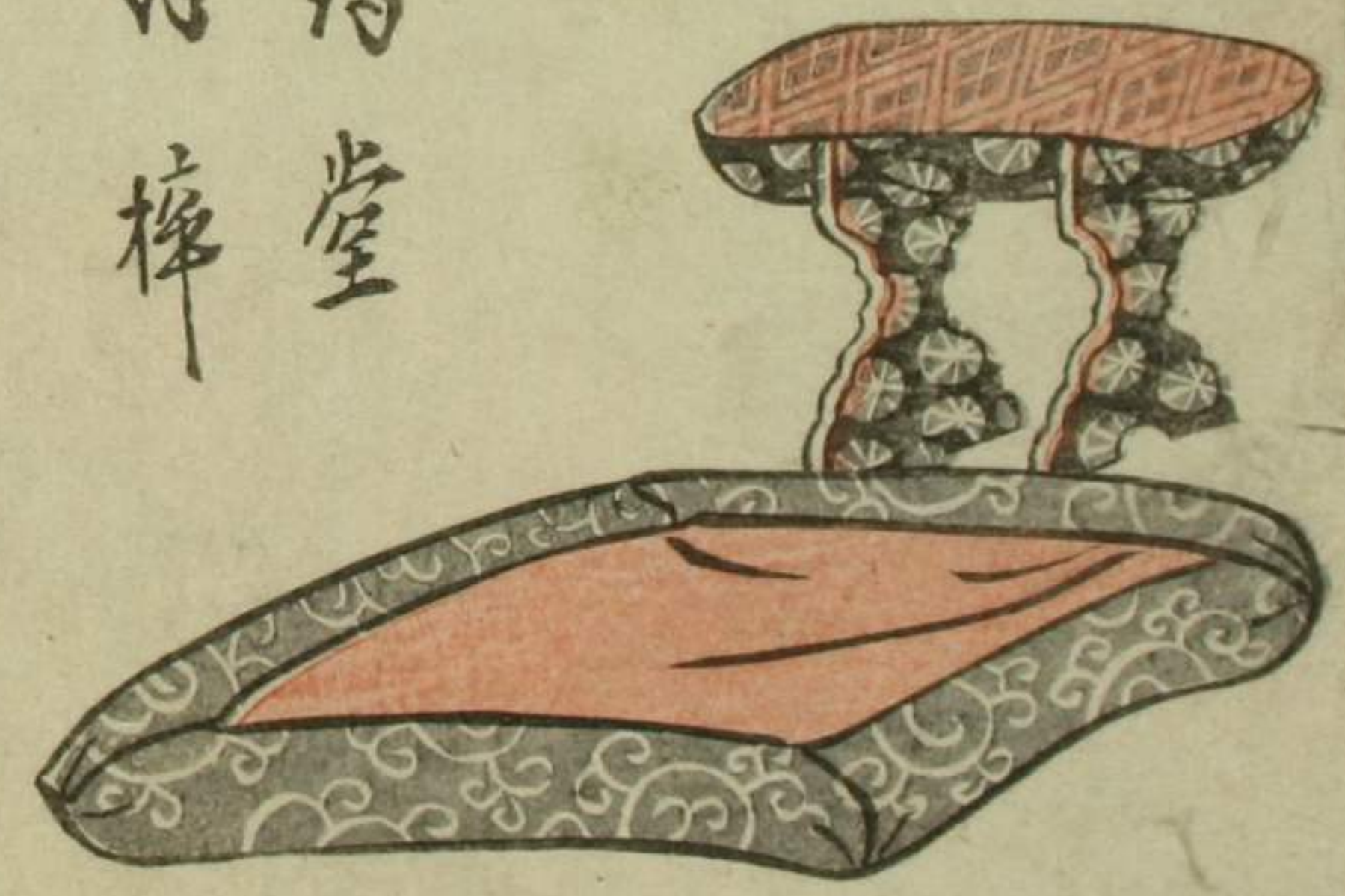
森福堂 校



笑人録十六
編下巻

京沙作
国郷画

在納堂
寿樟



ある識者の言に、これより力を以て
勝者へ亡び徳を以て人へ勝
者へ昌と唐土の書物
と云ふ今いひて乱れをある
その中ふ金は千ありひあるもの
馬をりをわけて天下をむるの
やうなまをさむめたるもひうたんに
れるかを以て人へ勝たるもあなり
と云ふ此人は勝と云ひ万事をいさるるも
町人のちありてやふふ小ざうをつひとありて
くけ時あるたをいふ小ざうはいつたもつひ
おまの事をててわさむる人のまはる
大なる繪やのまををて
わさむるもつひと



1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525

(一) あまろ
 けあひ
 さうあろく
 「あまろけさ
 下いこを
 あろく
 あろく
 さう
 (二)

(三) あろく
 男の
 あろく
 あろく
 あろく
 あろく

(四) あろく
 男をうけ
 けろく
 あろく

五

[illegible]

六
子

(六) くちん
ちがなぞ
ひびきを
かりー
人さきバ
びつり
ぎやう
えん
おれど
とまふ
自はるが
くさて
やそのの
にあらを
あひいじ
あきなが
もまを
まぐり
そらぬ

まのりやとふひさうで
糸をつちてをさ

つゝをんきり
ゝるあひなき
こりやひと
まゐん
甘や
おぬく
○あひの
うゝあ
「かて
ふり外





を

つとむ

[illegible]

此
 人
 之
 志

(丸) 物の牙
 まりやとを
 匠中
 らぬこれを
 あくま
 らん
 をの
 ころ
 ぎま
 まる
 あま
 上
 へ
 (丸)



と目入
操井
の草中
ふしの
はりのど
せうき
さかん
とや
ひのくぬた
どのをいれ
あーそち
たさるゝあて
ひそふふまほ
あらもあぢ
おふふんとい
熱帯ふんの
そあーやまに
ものりたまの
なまふんと
ねらふふふふ
あまふふふ
くめふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

①

(二) ふんあんあふ
きうあふそのまふ
はきよのふん
きくてもふん
あんー あふし
あふふふふ
物のふふあん
あふふふふふ
ふふふ
のち(三)

[illegible]

① ぎん
 あよぞ
 あめつ
 いかの
 かくらひ
 くら
 さいり
 とてはわの
 うらにうて
 ぢちあうの
 ちげん人のあやね
 さいすむらうぢよ
 をのうと
 づみへ



① 不喜の所

きん

五ノ三ノ由

二百五十
くろしめ
ゆきあて
うらわん
くろしめ
くろしめ
くろしめ

都どのの
 ちきり
 生は

こまぢぢ
る時へぢ
へひだの
ふり子の
めの子人
いへもま
わさりせ
きなを
たへの
ぢぢづ
うひハ
雪れ
外か
はく
おの
ぢぢぢ
あふ

いふことにもおかし
な事さう
おかしな事

③ あつてさうな事さうな事
あつてさうな事さうな事
あつてさうな事さうな事

④ さうな事さうな事
さうな事さうな事
さうな事さうな事



① あつてさうな事さうな事
あつてさうな事さうな事
あつてさうな事さうな事

② さうな事さうな事
さうな事さうな事
さうな事さうな事



あつてさうな事さうな事
あつてさうな事さうな事
あつてさうな事さうな事

あつてさうな事さうな事
あつてさうな事さうな事
あつてさうな事さうな事

安政四年丁巳年孟春新鑄目錄

新增補西國奇談 歌川國貞 五編 貞 四編 画 三編	夢想兵衛勘畧枕 一勇齋國芳 五編 大尾 編	総次郎琴聲美人録 立川齋國 十四編 仙 十五編 果 十六編 作 編	娘庭訓金鶏 山東庵京山 初編 梅蝶樓國貞 二編 貞 三編 画 編
井 佐野屋喜兵衛板 芝神明前三島町角	花兄弟陸奥名所 同 二編 編 作 画 編	根源實紫 歌川國貞 十一編 貞 十二編 画 編	吉三松梅竹取物語 樂亭西馬 初編 貞 二編 画 編

國郷画



安政五年七月
九十翁
京山作
ひびくまへ下をり

ついでに...
代々...
その...
あき...
その...
いふ...
その...
ひびくまへ下をり

